インクジェットプリンタ CJV150- シリーズ

お手入れのお願い

本機は非常に微細なメカニズムを持つ精密機械です。特にインクを吐出するヘッドのノズル面は、わずかなホコリや紙粉の付着でも影響を及ぼし、正常なプリント結果を得られなくなる可能性があります。
より良い状態でご使用いただくために、以下のお手入れを日常行われることをお勧めします。

1. お手入れを行うタイミング

お手入れを行うタイミング	お手入れ項目	参照ページ
毎日 (1 日の作業終了後)	ヘッド周辺	P.2
	キャッピングステーション	P.3
	ワイパー	P.4
	メディア押さえ	P.5
	メディアセンサー	P.5
1 週間に 1 回 (週末の作業終了後)	プラテンの清掃	P.6
	外装	P.6
	廃インクタンク	P.6
	インク排出路	P.7
汚れた場合に交換または清掃する	排気 BOX フィルタの交換	P.8
	排気 BOX の交換	P.9
長期間使用しない場合	「保管洗浄」の実行	P.11

お手入れに必要な道具

- クリーンスティック (品番：SPC-0527)
- ソルベント用メンテナンス洗浄液キット 200 (品番 :SPC-0369)
- 昇華転写用洗浄液ボトルキット A29 (品番 :SPC-0137)
- 綿棒
- 手袋
- 柔らかい布

2. 毎日行うお手入れ

注 意

- ヘッド周辺 / キャッピングステーション / ワイパを清掃するときは、クリーンスティック (SPC-0527) をお使いください。
  通常の綿棒をお使いになると、糸くずが残って二次障害を引き起こすことがあります。
- キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパは、必ず毎日メンテナンスをおこなってください。汚れたままにした場合、ノズル面に汚れが付着したり、ノズルにゴミや凝固インクをこすりつけ、吐出不良が発生する恐れがあります。
- キャリッジ下面がインクやホコリの付着により汚れないように、必ず毎日清掃をおこなってください。汚れたままの状態にしておくと、ヘッドクリーニング時のワイプ動作でノズルにゴミや凝固インクをこすり付けてしまう恐れがあります。
- キャリッジ下面を清掃する場合、ノズル面をこすらないよう、十分に注意してメンテナンスをおこなってください。

(1) ヘッド周辺 （取扱説明書 4 章「ヘッド周辺の清掃」）

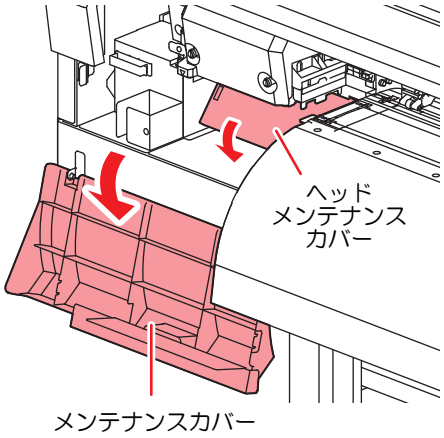
▪ ソルベント用メンテナンス洗浄液キット 200(品番 :SPC-0369)/ 昇華転写用洗浄液ボトルキット (品番 :SPC-0137)

重要!

- ヘッド周辺は、本装置の中で最も汚れがたまりやすく、本装置の動作や作図結果に影響を及ぼす恐れのある場所です。また、ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れには十分な注意が必要です。

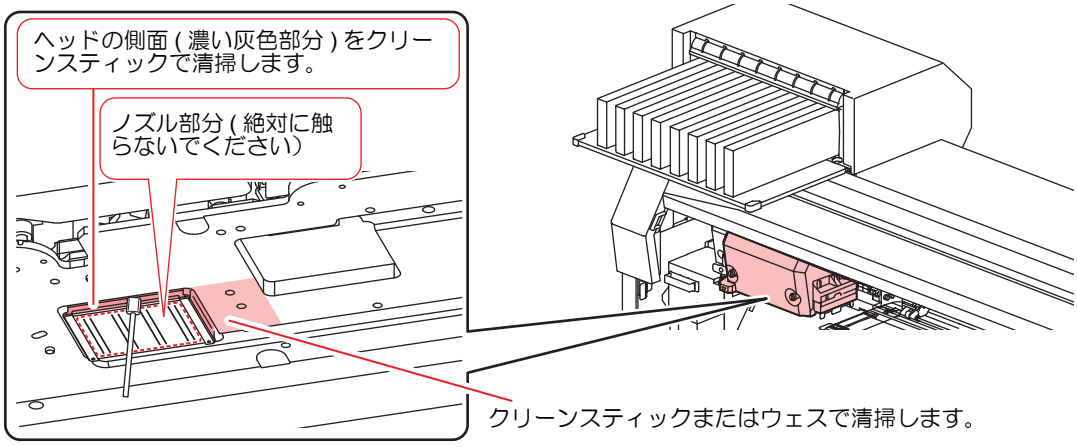
1 キャリッジを左へ移動させ、メンテナンスカバーとヘッドメンテナンスカバーを開く

- 取扱説明書 5 章「ヘッド周辺の清掃」手順 1 ～ 4 を参照して操作してください。



2 クリーンスティックまたはウェスにメンテナンス洗浄液を含ませ、ヘッドの側面、スライダー底面に溜まったインクを拭き取る

- ノズル部分は、絶対にこすらないでください。



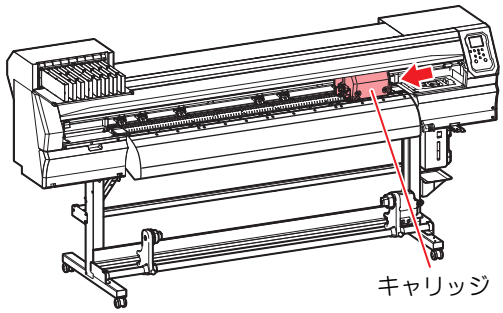
(2) キャッピングステーション （取扱説明書 5 章「ワイパーとキャップの清掃」）

キャップ周辺も、ホコリやインクがたまりやすい場所です。ご使用のインクに適したメンテナンス用洗浄液を使用し、ヘッドに汚れが付着しないよう、こまめな清掃をお勧めします。

- ソルベント用メンテナンス洗浄液キット 200(品番 :SPC-0369)/ 昇華転写用洗浄液ボトルキット (品番 :SPC-0137)

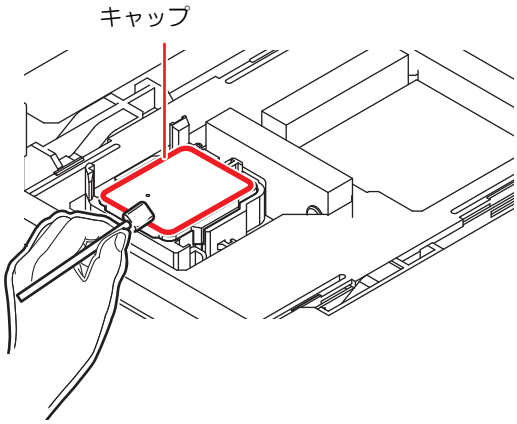
1 キャリッジを移動させる

- 取扱説明書 5 章「ワイパーとキャップの清掃」手順 1、2 を参照して操作してください。



2 キャップを清掃する

- クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませ、拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



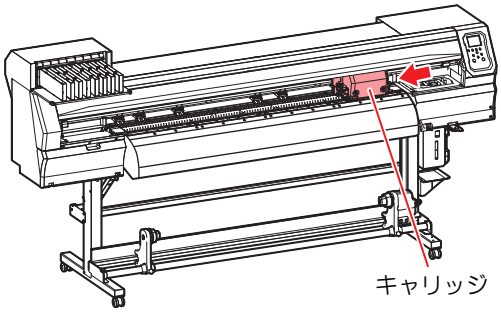
(3) ワイパー（取扱説明書 5 章「ワイパーとキャップの清掃」）

ワイパーには、インク、ホコリおよび紙粉などがたまります。ワイパーの状態を確認し、汚れていたら清掃してください。

- ソルベント用メンテナンス洗浄液キット 200(品番 :SPC-0369)/ 昇華転写用洗浄液ボトルキット (品番 :SPC-0137)

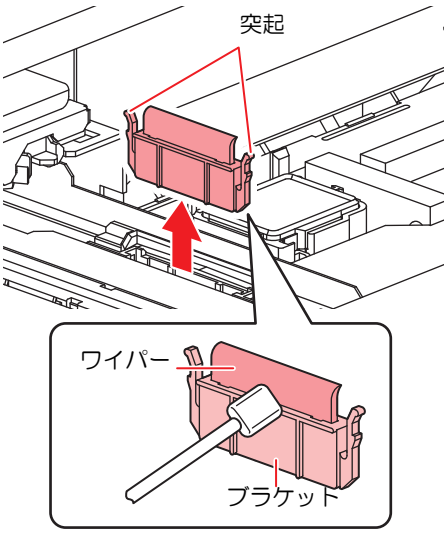
1 キャリッジを移動させる

- 取扱説明書 5 章「ワイパーとキャップの清掃」手順 1、2 を参照して操作してください。



2 ワイパーを清掃する

- ワイパー両端の突起を持って、ワイパーを取り出します。
- クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませ、ワイパーとブラケットに付着したインクを拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。



また、次のような場合は、取扱説明書 5 章 「 ワイパーを交換する」にしたがって、新品のワイパー (品番：SPA-0134) と交換してください。

- ワイパーが変形している場合
- 固着したインクが拭き取れない場合
- ワイパー交換のワーニングが表示された場合

(4) メディア押さえ （取扱説明書 4 章「メディア押さえの清掃」）

メディアのカットくずやホコリがメディア押さえとプラテンの間にたまると、メディアの搬送が正常に行えなかったり、ノズルに付着して正常なプリントができなくなる恐れがあります。こまめに清掃してください。

(5) メディアセンサー （取扱説明書 5 章「メディアセンサーの清掃」）

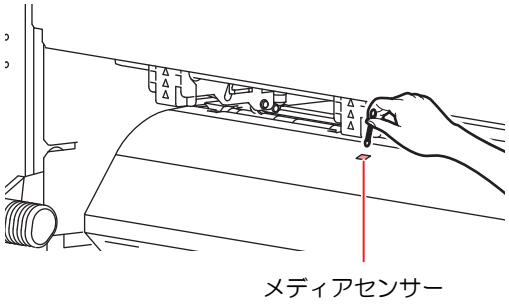
センサーは、本体背面の背面側のプラテン上と、ヘッドの下面にあります。

センサーにホコリやインクが付着すると、メディアの誤検知の原因になります。柔らかい布や綿棒でふき取ってください。

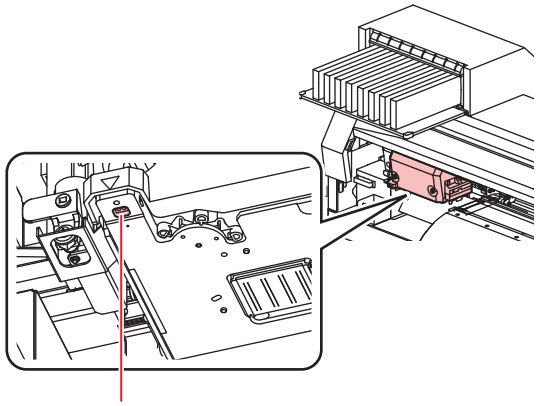
注 意

- センサーの清掃には、溶剤は絶対にお使いにならないでください。
- 汚れが激しいときは、水で薄めた中性洗剤を含ませた布で拭き取ってください。

装置背面



ヘッド下面

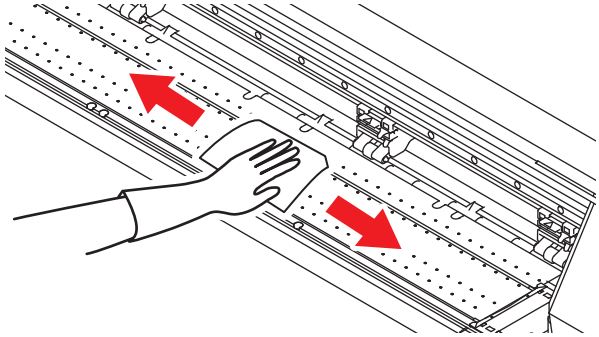


3. 定期的に行うお手入れ（1 週間に 1 回）

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、1 週間に 1 回、定期的にお手入れをしてください。

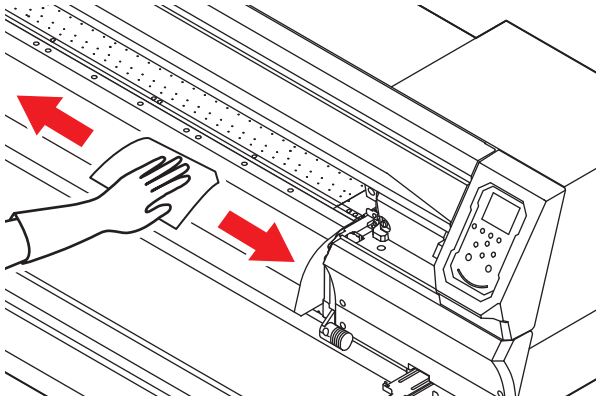
(1) プラテン （ 取扱説明書 5 章「プラテンの清掃」）

プラテンは、ホコリ、紙粉、インク汚れが付着しやすい場所です。こまめに清掃してください。
柔らかい毛のハケや乾いた布で、プラテン面およびプラテンカバーを拭いてください。
メディア押さえ用の溝や、用紙カット用の溝 (カッターライン) などは特に汚れがたまりやすい場所です。入念に清掃してください。



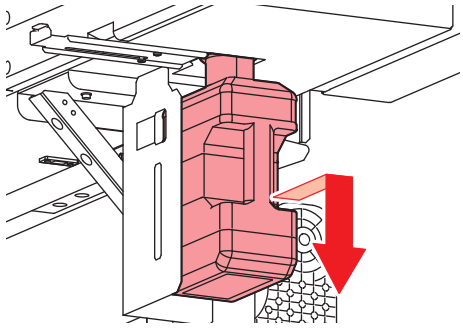
(2) 外装 （ 取扱説明書 5 章「外装のお手入れ」）

使用環境により、本体の外装には塵や砂埃が付着することがあります。ヘッド移動部へのホコリの進入を防ぐために、柔らかい布に水を含ませ、固く絞ってからふき取ってください。



(3) 廃インクタンク （ 取扱説明書 5 章「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」）

廃インクタンクが満杯になっていないか確認して、廃インクがあふれないように注意してください。



(4) インク排出路（取扱説明書 5 章「インク排出路の洗浄」）

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的に (1 週間に 1 回程度) インク排出路の洗浄 (ポンプチューブ洗浄) をしてください。

重要！ • インク排出路の洗浄を行う前に、必ずメンテナンス洗浄液がセットされていることを確認してください。メンテナンス洗浄液がセットされていないと、洗浄動作をせず、経路が詰まる恐れがあります。

1 “ メンテナンス ” メニュー →“ ステーションメンテ ”→“ ポンプチューブ洗浄 ” を選ぶ

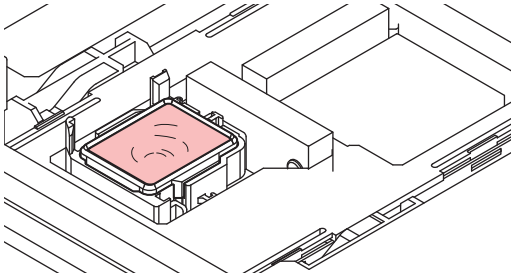
- 取扱説明書 5 章「インク排出路の洗浄」手順 1 ～ 3 を参照して操作してください。
- キャリッジがプラテン上に移動します。

2 ENTER キーを押す

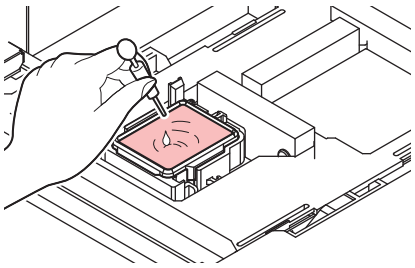
- 空吸引動作を洗浄の作業が終わるまで繰り返し行います。

3 メンテナンス洗浄液を、キャップ一杯に満たす

- 洗浄液カートリッジが有効の場合、自動で洗浄液が満たされます。洗浄液が足りない場合、[FUNC2] キーを押すと洗浄液が追加されます。



- 洗浄液カートリッジが有効でない場合、スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たします。キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



4 ENTER キーを押す

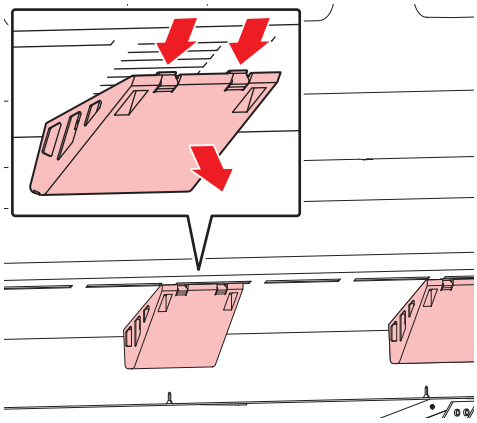
4. 汚れた場合に交換または清掃する

(1) 排気 BOX フィルタの交換

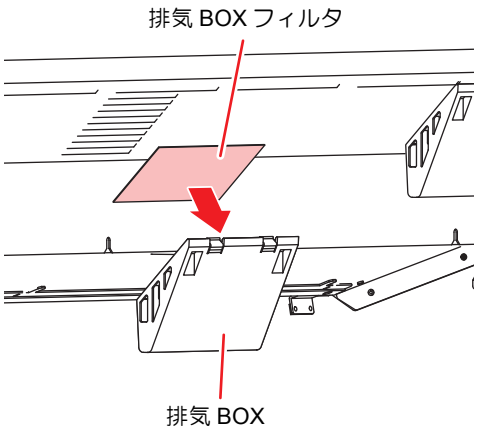
排気 BOX フィルタ (品番：SPA-0249) がインクで汚れた場合、交換してください。

1 排気 BOX のツメ (2 箇所) を外す

• 排気 BOX 奥側も排気 BOX のツメが引っかかっています。

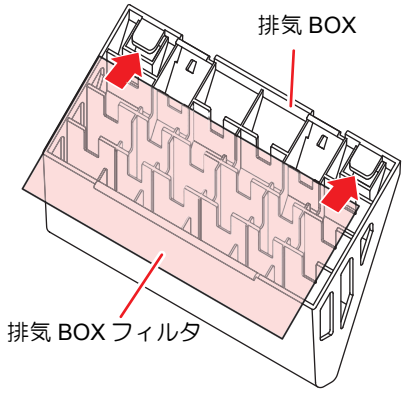


2 排気 BOX、排気 BOX フィルタを取り外す



3 新しい排気 BOX フィルタを取り付ける

• 排気 BOX フィルタを排気 BOX のツメのすき間に差し込みます。



4 排気 BOX を元に戻す

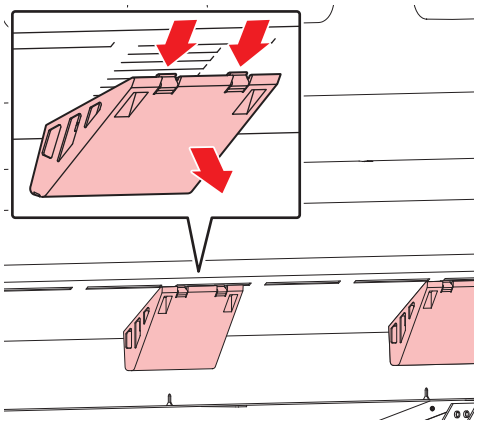
• 排気 BOX 奥側のツメを本体に引っかけてから、手前側をはめ込みます。

(2) 排気 BOX の交換

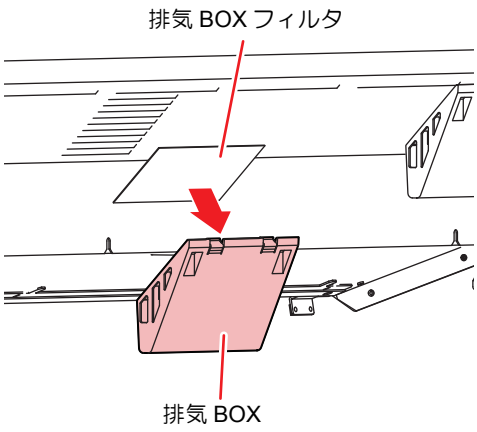
排気 BOX(品番：SPA-0248) がインクで汚れた場合、交換してください。

1 排気 BOX のツメ (2 箇所) を外す

• 排気 BOX 奥側も排気 BOX のツメが引っかかっています。

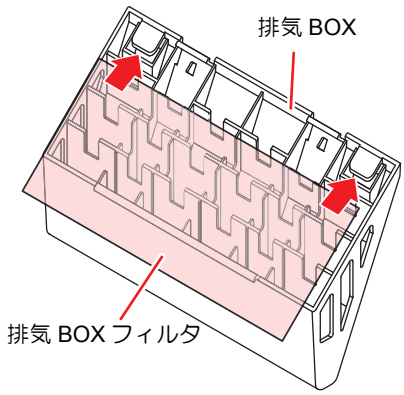


2 排気 BOX を取り外す



3 新しい排気 BOX フィルタを取り付ける

• 排気 BOX フィルタを排気 BOX のツメのすき間に差し込みます。



4 排気 BOX を元に戻す

• 排気 BOX 奥側のツメを本体に引っかけてから、手前側をはめ込みます。

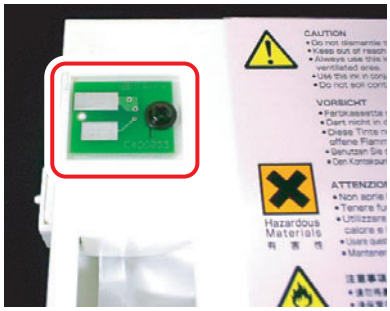
5. メディアの保管

メディアは、ほこりが付きにくく直射日光が当たらない場所に保管してください。また湿度も嫌いますので高温多湿な場所での保管は避けてください。

6. インクカートリッジの保管

次の事項に注意して保管してください。

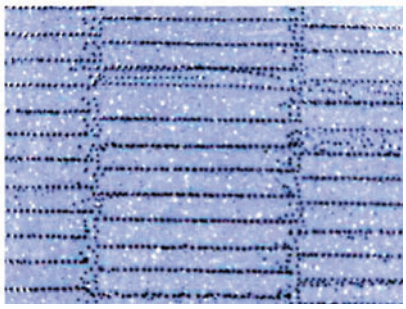
- 直射日光があたらず、湿度の高くない場所に保管してください。
- 精細な製品のため、カートリッジを落下させたりぶつけたりしないでください。
- インクカートリッジに装着されている基板は、手で触れて汚したり、静電気放電させないでください。



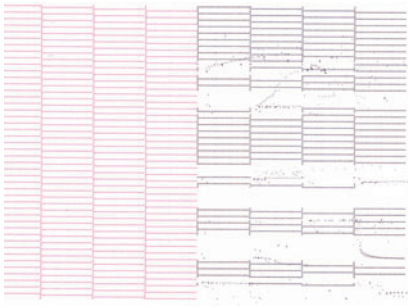
インクカートリッジに装着されている基板

7. 作図不良の例

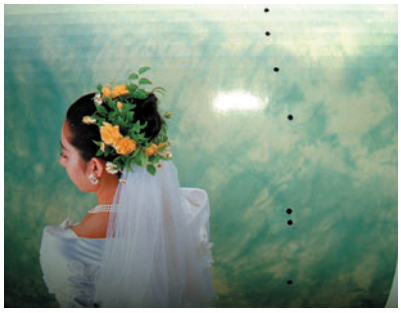
ホコリなどを原因として発生するヘッド (ノズル) の吐出不良が、作図に及ぼす代表的な例を示します。
このような状態で使用しないように、出力前や出力中に定期的にノズルの状態を確認してください。
ノズルの状態は、本装置の「テストプリント」で確認できます。
(取扱説明書 2 章「テストプリントを行う」)



1. 飛行曲がり

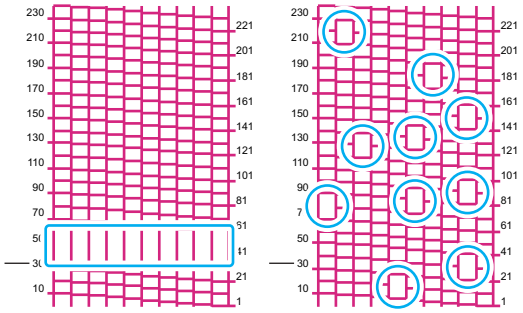


2. ノズル抜け



3. ボタ落ち

4. しぶき



5. 空気の混入

8. ノズル吐出不良の回復方法

本装置を長時間使用しなかった場合や環境温度によっては、ノズルの吐出が不安定になる場合があります。この場合、ノズルを回復させるために以下の方法があります。

■ **P.10「作図不良の例」1 ～ 4 の症状の場合**

1. 日ごろのお手入れ
- 本書に記載されている、各所のお手入れを行ってください。

2. ヘッドクリーニング（ノーマル）をする ☞取扱説明書 2 章
- 1 のお手入れを行った後、取扱説明書の手順に従ってヘッドクリーニングを実施します。

➡ テストプリントを行い確認する（取扱説明書☞2 章）

ノズル抜け等が改善しない場合

3. ヘッドクリーニング（ハード）をする ☞取扱説明書 2 章
- 数回ノーマルクリーニングを繰り返してもノズル抜けがなくならない場合、クリーニングモードをハードに設定して、再度ヘッドクリーニングを実施します。

➡ テストプリントを行い確認する（取扱説明書☞2 章）

ノズル抜け等が改善しない場合

4. ヘッドノズルの洗浄をする ☞取扱説明書 5 章
- ヘッドノズルの洗浄をしてください。
  このとき、メンテナンス洗浄液の放置時間は [1 分] にします。

➡ テストプリントを行い確認する（取扱説明書☞2 章）

ノズル抜け等が改善しない場合

5. 再度、ヘッドノズルの洗浄をする ☞取扱説明書 5 章
- メンテナンス洗浄液の放置時間を [10 分] にして、再度、ヘッドノズルの洗浄をしてください。

➡ テストプリントを行い確認する（取扱説明書☞2 章）

重要！ ・以上の操作をしてもノズル抜けが回復しない場合には、弊社または本機をお買い上げいただいた販売店にサービスコールをしてください。

9. 長期間使用しない場合

1 週間以上使用しない場合は、保管洗浄機能を使用し、ヘッドのノズルとインクの排路をクリーニングしてください。その後、本装置を保管してください。

10. サプライ品のご案内

品名	品番	品名	品番
ソルベント用メンテナンス洗浄液キット 200	SPC-0369	排気 BOX	SPA-0248
昇華転写用洗浄液ボトルキット	SPC-0137	排気 BOX フィルタ	SPA-0249
カッター刃 ASSY	SPA-0107	ワイパーキット 33S	SPA-0134
ヘッド周辺用クリーンスティック 50 入	SPC-0527	廃インクタンク (2L)	SPA-0246

11. 安全上のご注意

⚠ ご注意	
	お手入れの際は必ず付属のゴーグルと手袋を装着してください。
	インクは、水やアルコールと混ざると凝集物が発生します。ノズル面、ヘッド周辺やキャップ、ワイパーなどに、水またはアルコールを付着させないようご注意ください。
	本機はインクの吐出安定性を確保するために、長時間使用 (出力) しないときは、充填するインク種によって定期的に微量のインクを吐出 (フラッシング) させる必要があります。 長時間使用しないときは、本機の [ホカンセンジョウ] 機能 (取扱説明書 4章「長期間使用しない場合」) を実行してから、前面の電源ボタンのみを OFF にしてください。右側面の主電源スイッチは ON (| の状態) およびコンセントは挿入した状態にしておいてください。
	本機を絶対に分解しないでください。感電、火災および破損の原因になります。
	本機の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電、火災および破損の原因になります。
	お手入れは、電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
	ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質、変形する恐れがあります。
	本機の内部に潤滑油などを注油しないでください。故障する恐れがあります。

12. 設置環境

- できるだけホコリの少ない環境で使用してください。扇風機、送風機なども周囲のホコリを舞い立たせる原因です。
- 使用環境は、+20 ～ +30 ℃ (68°F ～ 86°F)、35 ～ 65% Rh です。これより低温湿 / 高温湿でのご使用は避けてください。

Memo

お問い合わせ先

株式会社ミマキエンジニアリング
http://www.mimaki.co.jp/

テクニカルコールセンター
0120-106-114

お問い合わせ時間 ： 午前 9:00 より午後 6:00 まで
営　業　日　　： 月曜日から金曜日まで (祝祭日を除く)

「日常のお手入れのお願い」の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

© 2014 MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.

D202774-10-01092014

NH
FW :1.00